

オーラルヘルスにおける健康格差の縮小

【健康格差とは】
地域や社会経済状況の違いによる集団における健康状態の差

参考資料③
第3回 健康づくり懇話会資料より



健康格差の縮小①：乳幼児期

3歳児で4本以上のう蝕のある歯を有する者の割合の減少

現状 4.1% (R4年値)
目標 2.0% (R9年値)

○ ライフコースの入り口である乳幼児期の多数う蝕は、社会経済的要因が影響する

健康格差の縮小②：成人期～高齢期

40歳以上における自分の歯が19歯以下の者の割合の減少

現状 19.9% (R4年値)
目標 11.0% (R10年値)

- 歯の喪失は、う蝕や歯周疾患(歯周病等)の罹患によって生じる
- 残存歯数はライフコースにおける歯科疾患の有病状況や口腔内環境等が反映された総合的な結果としてとらえることができる

自分の歯を有する者の割合 (R4)

60歳で24本以上	74.1%	80歳で20本以上	57.7%
-----------	-------	-----------	-------

う蝕のない者の割合 (R4)

3歳児	87.7%	12歳児	62.4%
-----	-------	------	-------

歯周炎等を有する者の割合 (R4)

20歳	22.2%	40歳	53.4%	60歳	59.6%
-----	-------	-----	-------	-----	-------

未処置歯を有する者の割合 (R4)

40歳	35.7%	60歳	26.2%
-----	-------	-----	-------



誰でも恩恵を受けられるよう社会的要因の改善
集団(就学児)を対象としたポピュレーションアプローチ



関連指標と主な取り組み